

## ⑥アジアを拠点とするグローバル戦略

これまで欧米中心の情報通信に関する政策決定と産業展開に対して、科学技術の研究開発の拠点を、我が国だけでなくアジアとして形成するための戦略と推進体制を確立。

### 総務省の取組み

#### 〔アジアとしての研究開発拠点形成〕

- ・多言語の翻訳を実現するため、APEC TEL WG にてアジア諸国の研究機関と音声翻訳に関する共同研究体制を構築
- ・北京五輪にて音声翻訳の実証実験を実施
- ・音声翻訳多言語化のため、辞書などのデータフォーマット、通信プロトコルをAPT、ASTAPで標準化
- ・次世代ネットワーク(NGN)の国際標準化において、アジア地域や我が国が主導的役割を果たすため、日中韓が協力して製品レベルでの国際相互接続試験等を実施
- ・アジアの国々にもテストベッドネットワークを構築し、情報通信技術やネットワークを活用する応用技術等の研究開発に活用
- ・宇宙航空研究開発機構(JAXA)及び情報通信研究機構(NICT)が開発した超高速インターネット衛星「きずな」(WIDNS)を利用して、アジア・太平洋地域の諸国との国際共同実験を推進

## ⑥アジアを拠点とするグローバル戦略

### 主な成果

- 北京オリンピック期間中、北京にて、スタンドアロン、携帯電話型の音声翻訳システムのモニターユーザによる実証実験を実施(自動音声翻訳技術の研究開発)
- 2007年度に、日中韓の研究機関が共同で実証実験を行うことができるテストベッド環境を整備し、相互接続環境下におけるサービス品質測定機能の検証等の共同実験を開始  
→サービス品質測定機能に関するITU-T勧告が2008年9月に承認(次世代ネットワーク基盤技術の研究開発)
- 平成20年2月「きずな」が打上げに成功し、初期機能確認を経て同年7月に定常運用へ移行(超高速インターネット衛星の研究開発)



NHK「おはよう日本」での放送  
(2008年8月8日(金)朝)



### 日中韓テストベッド環境

